

児童・生徒の現状・課題

- ①自己の課題が分かり、方法を選択しながら学べるようになること。
- ②他者の意見や多様な個性を受け入れて、学びを得ること。



学び続ける力を育むための重点目標

- 自己理解を深め、関わり合いの中で他者を受け入れ、よりよい関係性を築くことができるようにする。
- 自己の課題が分かり、課題解決のために個人や友達と学習を進めることができるようにする。



※肯定的回答の割合(%)

児童生徒調査	昨年度	目標値(8月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	80.1	90	83.2
②他の人と考えを交流したり、協力して活動に取り組んだりすることは、自分の力をのばす役に立っている。	87.2	90	90.1

教員調査	昨年度	目標値(8月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	61.9	80	78.9
②授業では、他の人と考えを交流したり、協力して活動に取り組んだりする場面を設定し、児童の思考を深めたり、広げたりできるようにしている。	98	100	100

具体的な手だて①

- 誰もが安心してすごせる環境づくりをする。
- ・子どもたちが安心して学習するための授業規律をつくる。
- ・町田市特別支援教育ハンドブックのUD 授業振り返りシートを活用し、学習環境・生活環境を整える。

具体的な手だて②

- 個の特性やよさを生かせる場面を設定する。
- ・課題を設定する場面をつくる。

具体的な手だて③

- 児童が個人の課題をつかめるように導入の工夫を図る。



校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- 通常の授業を参観し、感想を共有する。
- ・参観後は授業者にフィードバックする。スプレッドシートを活用し、よかった点を職員間で共有する。
- 毎週水曜をOJTタイムとして、安心できる学習環境、個の力を生かすことに関して、一人一回実践報告をする。

総括(7月)

児童の実態における本校課題は、①誰もが安心して過ごせる環境づくりを行うこと、②個を集団の中で生かしながら、個々の児童の力を最大限に引き出すことの2点である。

この2つの課題を解決するために、他の人と考えを交流したり、協力して活動に取り組んだりする場面を設定し、児童の思考を深めたり、広げたりできるようにするとともに自分の考えを受け入れられる経験を通して教室における安心感を醸成する。また、日常の授業において児童に選択させる場面を設定すること、そのために必要な手だてを教員がしっかり準備することで児童が自己理解を深めながら課題を解決できるようにすることが、授業改革の芯であると考えた。

総括(1月)

各学年とも学習への意欲は概ね高く、特に友だちとの交流や協力的な活動を通して前向きに取り組む姿が多く見られる。一方で、共通する課題として、授業のはじめに前時の振り返りや課題・めあてを十分に確認できていないこと、学習方法を自ら選択したり、間違えた際に試行錯誤したりする力が十分に育っていない点が挙げられる。また、教師主導でない場面では、めあてに対する思考が広がりにくい傾向も見られる。今後は、児童が「解決したい」と感じられる課題設定や、学級全体での合意形成、個人でめあてを選択する場を設けることが重要である。加えて、「分からない」と言える学級環境づくりや、毎時間の振り返りを通して、主体的に学びを深め、学習内容の定着を図っていく必要がある。

児童・生徒の現状・課題

学習への意欲は高く、課題に取り組むが、できないことがあると諦めてしまったり、次の手だてを取ったりすることができない。どこができていないのか、どうすればよいのかを振り返って考えられない。



学び続ける力を育むための重点目標

○子どもたち自身が、自らの学びを自ら進めるという意識を高め、理解度や進捗を振り返りながら学習できるようにする。



具体的な手だて①

学習内容や学習計画を単元の初めに示し、見直しをもたせる。

具体的な手だて②

単元の途中や1時間の途中で振り返る場面を設定し、理解度や進捗状況を自ら確認し、修正しながら学習できるようにする。

具体的な手だて③

共に学習する仲間、学習する場所、ツールなど、目的に沿って、自ら選択できる場面をどの教科においても毎時間設定する。



校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- ・研究の Classroom をつくり、日々の実践や意見、相談を日々書き込めるようにする。
- ・管理職の授業観察の際は、指導案を教員にも配布し、授業を互いに見合う機会をつくる。

※肯定的回答の割合(%)

児童生徒調査	目標値(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	85.0	82.5
②学習をしてもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している。	75.0	78.5

教員調査	目標値(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	85.0	90.5
②学習をしてもできるようにならないときは、どうすればよいか、見直しをもたせている。	85.0	78.5

総括(5月)

全国学力学習状況調査の結果を見ても、無回答という児童が10%程度おり、最後まで粘り強く取り組むという力が弱い。それは、授業において、受け身の授業が多く、児童自身に目標や目的がない状況であることや、自ら学び方を選択しながら学ばせることができていなかったことに課題があるからではないかと教員から声が上がった。そこで、日常の授業において生徒に選択させる場面を設定すること、そのために必要な手だてを教員がしっかり準備することを授業改革の芯に据えた。

総括(1月)

教員の意識としては、児童に選択させる場面を設定し、授業改革は推進されている。しかし、児童自身が自ら計画を立てて学習できているという自覚は、教員の意識ほどはない。教科によって、単元によっては、もっと児童に計画を立てさせ、またそれを振り返らせる場面を設定していくことが必要である。分からない問題やできないことをへの対処方法についても手だてが必要である。